

4、歯科医療の役割

日本歯科医師会の HP

http://www.jda.or.jp/dentist/index_2.html

によれば、世界歯科連盟によって、

「歯・顎・口腔の疾病・奇形・傷害を予防し、診断し、治療し、失われた歯と関連する組織を代替りの物
で補うという医療行為を行う医師のことを言う。」

というように歯科医師が定義されています。

これから考えると歯科医療というのは、

「歯・顎・口腔の疾病・奇形・傷害を予防し、診断し、治療し、失われた歯と関連する組織を代替りの物
で補うという行為」

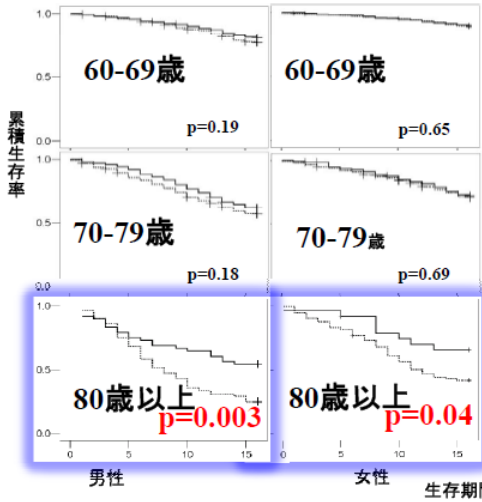
といえそうです。

これからの歯科保険制度を考えるうえで、要点となる歯科医療の役割を3つ挙げてみます。

- ① 歯を失わないようにする

歯数と生存期間との関係

機能歯数(10歯未満/10歯以上)と生存曲線



40歳以上の宮古島住民5,730名を対象とした15年追跡のコホート研究の結果

80歳以上では男女とも機能歯数が10本以上の住民において有意な生存期間の延長がみられた。

——機能歯10歯以上
機能歯10歯未満

注)機能歯数:調査開始時の使える歯の総数

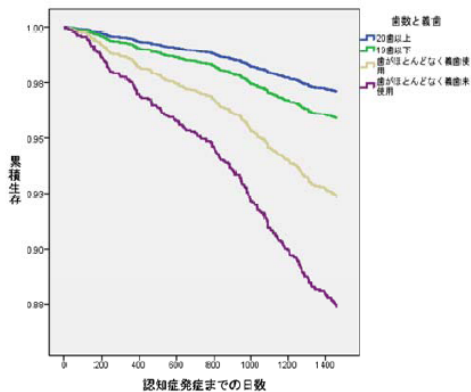
歯数と認知症との関係

歯を失うと認知症のリスクが最大1.9倍に

～厚労省研究班が愛知県の高齢者4,425名のデータを分析～

プレスリリース(2011.01.05)より(神奈川歯科大学データ)

歯数・義歯と認知症発症までの日数との関係



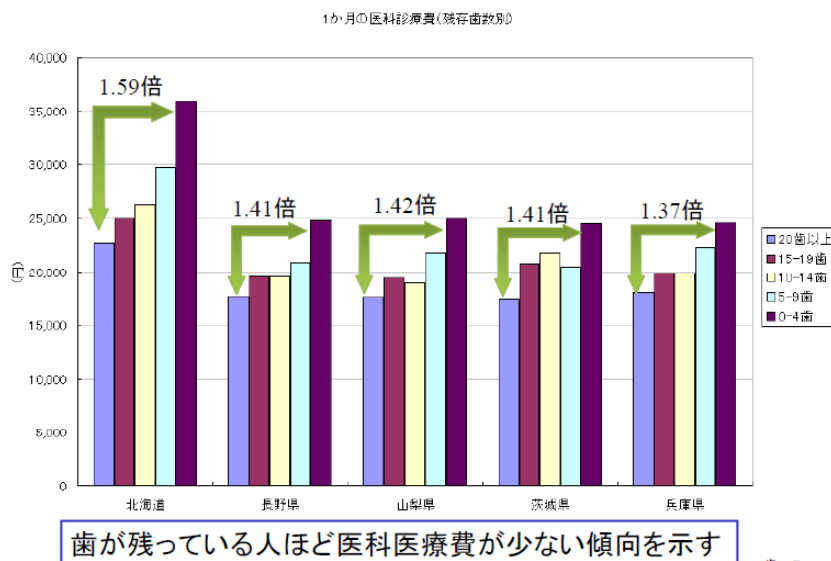
65歳以上の健常者を対象とした歯科検診に併せ、4年間、認知症の認定状況を追跡。

↓
 年齢、疾患の有無や生活習慣等に関わらず

- ①歯が殆ど無く義歯を使用していない人
 - ②あまり噛めない人
 - ③かかりつけ歯科医院のない人
- は、認知症発症のリスクが高くなることが示された。

図は、「歯がほとんどなく義歯を使用していない人は、20本以上歯が残っている人と比べ最大1.9倍認知症発症のリスクが高いこと」を示す。 67

歯の数と健康度との関係(医療費で見た場合)



69

歯-5

(平成23年5月18日中医協資料「わが国の医療についての基本資料」より引用)

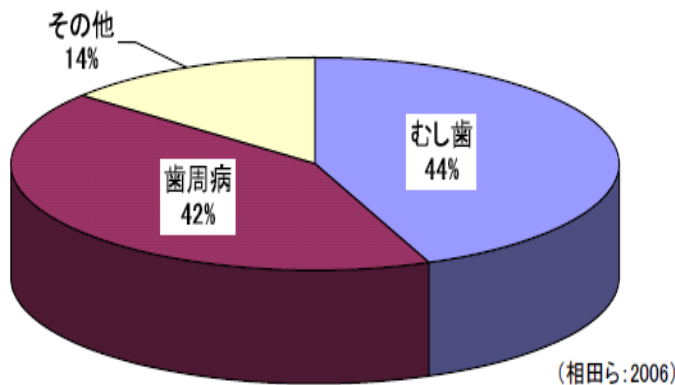
さて、当たり前の話のようですが、ひとは、自分の歯が多くあるほうが健康であることが、エビデンスをもって証明されてきました。下図のように歯を失う原因の約9割がむし歯と歯周病です。ということは、むし歯や歯周病を治すか、もしくはむし歯や歯周病にならなければ、多くのひとが健康に過ごせるわけです。むし歯と歯周病になってしまったら、早期に治療することが重要ですが、それらにならないようにすることのほうがいいのですね。つまり、

歯を失わない→むし歯や歯周病を治す→むし歯や歯周病にしない

これが歯科医療の大きな役割のひとつなのです。

歯を失う原因の約9割がむし歯と歯周病です

歯を失う原因



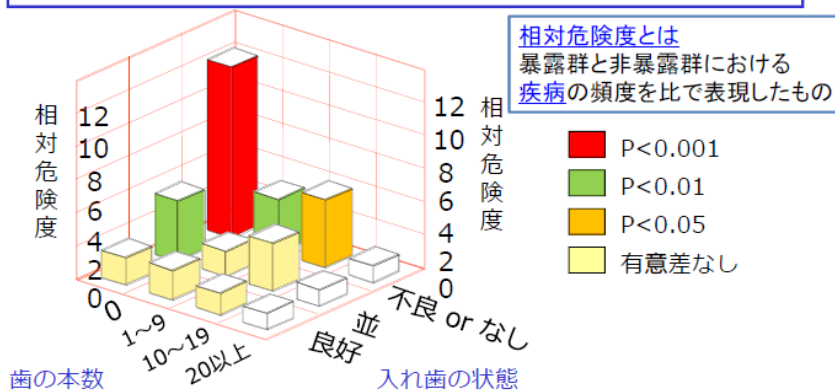
② 失った歯を補う

では、不幸にして歯が無くなってしまった場合は、どうなのでしょう。

義歯の状況も含めての生存期間との関係

歯が少なく、入れ歯の状態も悪い高齢者では、身体的健康状態が悪化することが示唆される。

* 身体的健康悪化とは介助必要や寝たきりとなること。(調査対象55歳以上)



1,929名の6年間の追跡調査より
(新潟大学データ,1996)

歯-2

(平成23年5月18日中医協資料「わが国の医療についての基本資料」より引用)

歯がなくなってしまった場合は、補綴（つまり入れ歯をする）をすることで、健康を保つことができることも

上図のようにエビデンスが示されています。

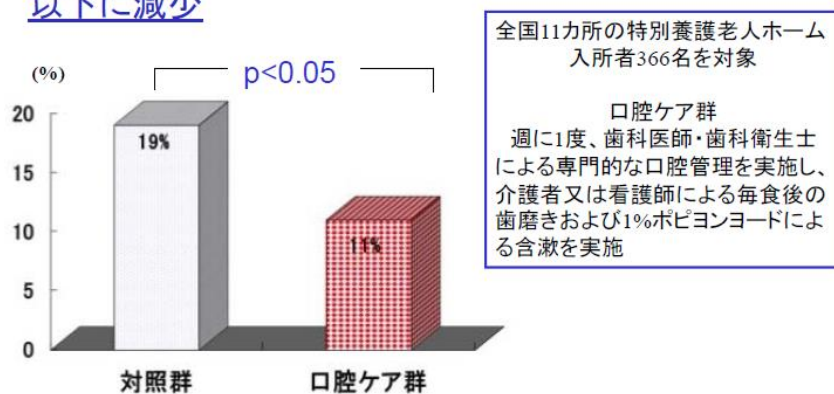
よく、補綴は医療ではないというひとがいますが、補綴という行為は、ひとの健康に役立つっぱな医療行

為なのです。

③ 口腔を管理する

口腔ケアと誤嚥性肺炎との関係

2年間の肺炎発症率の比較において、専門的口腔管理・ケアと口腔清掃により、誤嚥性肺炎の発症が約6割以下に減少



Yoneyama T, Yoshida Y, Matsui T, Sasaki H : Lancet 354(9177), 515, 1999.

口腔ケアと術後合併症との関係

頭頸部進行がん患者の再建手術における口腔ケアの介入効果

- 術後合併症率（単変量解析）

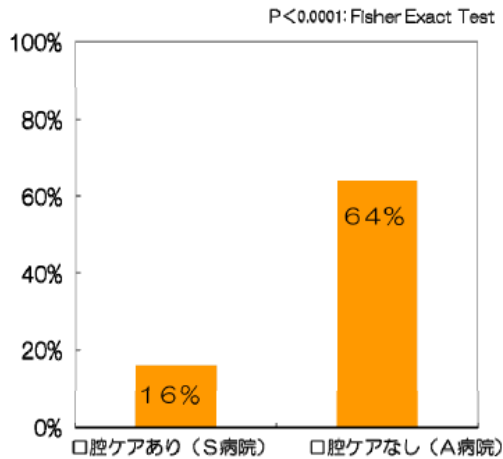


表 頭頸部癌再建手術後の合併症

	口腔ケアあり (N=56)	口腔ケアなし (N=33)
瘻孔形成	3例 (5.3%)	5例 (15.1%)
創部感染	3例 (5.3%)	7例 (21.2%)
皮弁壊死	0例 (0.0%)	3例 (5.3%)
肺炎	0例 (0.0%)	3例 (5.3%)
その他	3例 (5.3%)	3例 (5.3%)
合計	9/56例 (16.1%)	21/33例 (63.6%)

大田洋二郎, 米山武義: 口腔ケアについての情報提供:
PRACTICE IN PROSTHODONTICS, 38(5), 500-583, 2005

静岡がんセンター(大田, 歯界展望 2005)

(平成23年5月18日中医協資料「わが国の医療についての基本資料」より引用)

いわゆる口腔ケア（口腔ケアについての詳細は7章の予定）を行うと、医科の手術後の合併症が減少したり、誤嚥性肺炎が減少することもわかってきました。歯を削って治すこと以外にも「歯・顎・口腔の疾病・奇形・傷害を予防し、診断し、治療」という歯科医療が、健康に大いに貢献しているのです。

歯科医師法の第一条には、こうあります。

「歯科医師は、歯科医療及び保健指導を掌ることによつて、公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もつて国民の健康な生活を確保するものとする。」

逆にいうと、「国民の健康な生活を確保する」ために、歯科医師は、

① 歯を失わないようにする。

② 失った歯を補う。

③ 口腔を管理する。

という歯科医療の役割を果たさなければならないのです。

次章から、それらの役割と制度をどう「繋げる」かを論じていきます。